

平成22年度泉佐野市施策評価シート

施策番号 2-7 2-2-3

1. 施策の担当

責任課(室)名	青少年課
責任課(室)長名	東口 祐一
関係課(室)	

2. 総合計画における位置づけ

章	第2章	歴史・文化を大切にし、ひとを豊かに育むまちづくり(教育・文化)
節	第2節	生涯学習・スポーツ
施策	(3)	青少年の健全育成
施策の概要	市内の青少年健全育成団体の自主的活動を支援します。 地域と連携し、多様な青少年活動に対応できる人材の育成に努めます。 青少年会館やキャンプ施設を活用し、様々な体験活動などにより、青少年の居場所づくりを推進します。	
施策目標	対象(誰を、何を、どこを)	市民(青少年)
	意図(どのような状態にしたいのか)	家庭では、親が子どもとコミュニケーションを図りながら学び合い、地域においては大人が意識して子どもたちと関わるような状態を目指し、青少年が健やかに育つ環境づくりを進めます。

3. 市民ニーズ(アンケート調査より)

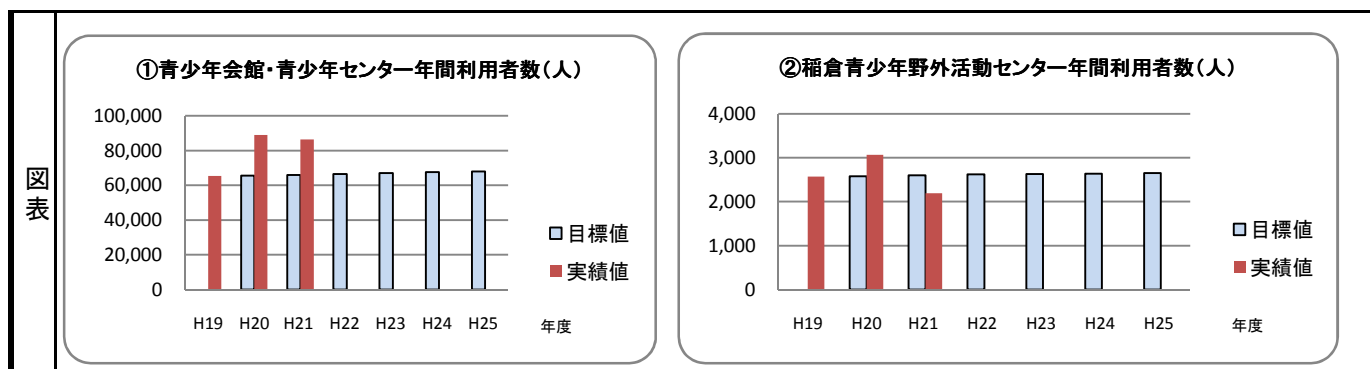
	平成19年度						
満足度(偏差値)	50.8						
重要度(偏差値)	52.8						

4. 事業費の推移(千円)

	平成19年度 決算	平成20年度 決算	平成21年度 決算	平成22年度 見込み	平成23年度 見込み	平成24年度 見込み	平成25年度 見込み
総事業費	—	155,276	157,597				
うち事業費	—	127,834	127,932				
うち人件費	—	27,442	29,665				

5. 成果指標

指標名	項目	平成19年度 (基準値)	平成20年度 (実績値)	平成21年度 (1年度目)	平成22年度 (2年度目)	平成23年度 (3年度目)	平成24年度 (4年度目)	平成25年度 (5年度目)
① 青少年会館・青少年センター年間利用者数(人)	目標値		65,500	66,000	66,500	67,000	67,500	68,000
	実績値	65,397	88,929	86,326				
	達成度		136%	131%	0%	0%	0%	0%
指標設定の根拠		めざそう値の設定根拠			目標達成・未達成の理由・背景			
この数が増えているかを把握することで、「青少年の居場所づくり」の場として、各施設の利用状況や利用者ニーズを把握できます。		各施設が受け入れられる許容人数の問題もあるが、5年間で年間利用者が3%ぐらいの増加を目標値として設定した結果。			平成20年度からの指定管理導入により利用数が増えたため			
指標名	項目	平成19年度 (基準値)	平成20年度 (実績値)	平成21年度 (1年度目)	平成22年度 (2年度目)	平成23年度 (3年度目)	平成24年度 (4年度目)	平成25年度 (5年度目)
② 稲倉青少年野外活動センター年間利用者数(人)	目標値		2,580	2,600	2,620	2,630	2,640	2,650
	実績値	2,571	3,069	2,194				
	達成度		119%	84%	0%	0%	0%	0%
指標設定の根拠		めざそう値の設定根拠			目標達成・未達成の理由・背景			
この数が増えているかを把握することで、子どもたちの自然体験を推進する場として、利用状況や利用者ニーズを把握できます。		他の青少年施設と同様に、5年間で年間利用者が3%ぐらいの増加を目標値として設定した結果。			平成21年度は新型インフルエンザ流行による利用の低下			
指標名	項目	平成19年度 (基準値)	平成20年度 (基準値)	平成21年度 (1年度目)	平成22年度 (2年度目)	平成23年度 (3年度目)	平成24年度 (4年度目)	平成25年度 (5年度目)
③	目標値							
	実績値							
	達成度		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
指標設定の根拠		めざそう値の設定根拠			目標達成・未達成の理由・背景			



6. 評価

①担当課による評価

判定	B	所見	①目標達成・未達成の要因	平成21年5月からの新型インフルエンザの流行、また夏休み期間にまでその影響が及んだことが要因
			②今後の方向	青少年施設の「遊びの場・学習の場・地域連携の場」として時代に即した運営検討を行う必要があります。
			③施策指標について	妥当ではあるが、21年度のように仕方なく事業を中止する場合利用者数が減るので、評価が下がる。
			④前年度の評価の結果	指定管理者制度未実施の施設につき、導入検討が必要である。事業の効率化の検討が必要である。
判定基準	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)		成果指標①②とも減少しましたが、平成21年度については、新型インフルエンザによる事業の中止、利用の減少があったものと思われる。	b
	施策に対する市民ニーズ		市民アンケートでは、満足度が低く、重要度が高いことからニーズが高い施策であると判断できますので、満足度を上げる必要があります。	b
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)		現在放課後の子どもの過ごし方などの施策が行われている中、市民ニーズに即した講座の検討など青少年施設の運営検討が必要となっています。	b

②政策推進課・行財政管理課による評価

判定	①今後の方向	青少年センターの機能移転についての検討が必要である。
	②指標の妥当性	
	③その他	

③外部評価委員会による評価

判定	①今後の方向	
	②指標の妥当性	
	③その他	

④理事者による評価

判定	①今後の方向	
	②指標の妥当性	
	③その他	

7. 施策を構成する事務事業

事務事業			事業費(千円)			事務事業評価
			21年度		22年度予算	
No	予算コード	事業名	人件費	事業費		
1	01058800	青少年健全育成事業	1,047	113,721	112,968	(選択)
2	01062000	成人祭事業	921	951	992	(選択)
3	01062100	青少年指導員事業	972	3,307	2,407	(選択)
4	01062200	ジュニアリーダー育成事業	223	379	418	(選択)
5	01062600	稲倉青少年野外活動センター運営事業	523	263	205	(選択)
6	01063600	青少年センター運営事業	14,975	3,676	3,383	(選択)
7	01063700	青少年センター施設管理事業	9,882	1,255	1,388	(選択)
8	01064200	稲倉青少年野外活動センター施設管理事業	1,122	4,380	4,296	(選択)
9						(選択)
10						(選択)
11						(選択)
合計			29,665	127,932	126,057	